

令和2年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度も、5領域それぞれの重点項目に対して各2つずつ計10の達成目標を掲げて取り組んだ。重点項目の内容は、令和元年度末の反省と学校評議員の意見を参考にして、より現実的・具体的となるよう設定し取り組んだ。

「1週間あたりの家庭学習時間」については、学校全体で見れば平均637分の結果となり、前年度の538分から大幅に数値が上昇した。生徒の実態に合わせた課題の与え方、また、学級担任の効果的な助言等により、生徒の学習意欲が高まったものと思われる。

「保護者同意の進路希望先決定率」については、3年生で100%、2年生で82.6%とどちらも目標に到達できた。進路ガイダンス等の行事の実施、学力の把握、保護者との面談等が上手く機能し、生徒の進路意識を向上させることができたものと考えている。

「教育活動への理解を深める情報発信の強化」では、保護者のホームページ閲覧数が増加した。昨年度よりも更新回数を大きく増やしたこと、給食の内容や行事予定等、新しい情報も発信したこと等が要因と考えている。

「自己肯定感の点数が向上した生徒の割合」において、6月から1月にかけて半数以上の生徒の点数が向上した。学年担当による個人面談やスクールカウンセラーの助言等の効果も大きい。学習指導面や進路指導面等の多くの項目で重点目標を達成していることを勘案すると、学校経営全体が健全で本校生徒に即しており、生徒が前向きな気持ちをもって学校生活を過ごした結果であると考えている。

7 次年度へ向けての課題と方策

「年間3冊以上の本を完読する生徒の割合」は目標値を大きく下回った。生徒の興味・関心について調査を行うこと、また、長期休業中の一斉貸し出しなどにより本に触れる機会を生徒に与えることが必要と考えている。

学習面では、教員の教科指導力を向上させることが重要である。生徒の学習意欲や進路目標に対応できるよう校内研修の機会を増やしていく。生徒による授業評価等も次年度には導入したい。

学校評議員からは、「生き生きと学校生活を過ごさせるためには、生徒の主体性を大切にすべき」との意見をいただいた。近年のネットルール作成だけにとどまらず、生徒自身が決定する仕組みを様々な領域に広げていく必要がある。

本校は小規模校であり、教員も生徒も変化に対応しやすい。良いアイデアは積極的に学校経営に取り入れ、さらに魅力のある学校となるよう改革を進める。

8 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和2年度 南砺平高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動																
重点課題	学習に取り組む態度の育成および教師の指導力の向上																
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力が不足しているため、教科内容の習得に時間がかかる生徒がいる。 ・進路に対する目標が明確でなく、課題への取り組みが不十分な生徒がいる。 ・家庭や寮での学習量や内容が不十分で、十分な態勢で授業や考查に臨めていない生徒がいる。 ・教員の年齢層が大きく2つに分かれており、ICT機器の利用にも大きな差がある。両者についてそれぞれの課題に応じた授業における指導力の向上が必要である。 																
達成目標	①学習時間の確保 生徒の1週間あたりの家庭学習時間 (放課後に自主的に行う学習も含む)	②タブレットを利用した授業の満足度の向上 タブレットの利用の満足度を3点満点で評価 (各学期末に取り組み状況で調査)															
	各学年平均 600 分以上	平均 2.5 点以上 (3点満点)															
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が取り組みやすい課題内容や生徒個々に合わせた課題レベルを検討し、家庭で学習する習慣を身につけさせる。 ・詳細な学習生活実態調査を実施し、生活指導を含めたきめ細かな面接指導・助言を行う。 ・進路調査、成績結果と実態調査結果を分析し、進路意識を高める面接により、意識付けを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修でタブレットなどのICT機器の特性を理解し、効果的な利用に繋げる。 ・本校だけでなく他校の取り組み事例を紹介し、授業での利用の幅を広げる。 ・互見授業の中で、年に2回、積極的にICTを利用した授業を公開し、教員相互の資質の向上を図る。 															
達 成 度	休校明け6月から1月末まで 1年生 <table border="1"><tr><td>752分</td><td>(前年度 521分)</td></tr></table> 2年生 <table border="1"><tr><td>501分</td><td>(前年度 510分)</td></tr></table> 3年生 <table border="1"><tr><td>657分</td><td>(前年度 584分)</td></tr></table> 平均 637分 (前年度 538分)	752分	(前年度 521分)	501分	(前年度 510分)	657分	(前年度 584分)	1学期末結果 1年生 <table border="1"><tr><td>2.6</td></tr></table> 2年生 <table border="1"><tr><td>2.3</td></tr></table> 3年生 <table border="1"><tr><td>2.4</td></tr></table> 平均 <table border="1"><tr><td>2.48</td></tr></table>	2.6	2.3	2.4	2.48	2学期末結果 1年生 <table border="1"><tr><td>2.8</td></tr></table> 2年生 <table border="1"><tr><td>2.2</td></tr></table> 3年生 <table border="1"><tr><td>2.7</td></tr></table> 平均 <table border="1"><tr><td>2.58</td></tr></table>	2.8	2.2	2.7	2.58
752分	(前年度 521分)																
501分	(前年度 510分)																
657分	(前年度 584分)																
2.6																	
2.3																	
2.4																	
2.48																	
2.8																	
2.2																	
2.7																	
2.58																	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学習生活実態調査を通年で実施し、クラス平均や最高時間を毎週掲示し、各自の学習時間を全体との比較により意識させた。 ・実態調査の毎日のコメントのやり取りで生徒の些細な変化を把握するとともに、個人面接や毎日のコメントを通して個別に適切な助言をした。 ・外部模試に向けて課題を与えたり、補充授業を計画的に継続して実施したりすることで、1、2年次から進路を意識させ、学習への意欲を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グーグルのクラウドサービスを臨時休校対策として導入し、再開後も生徒がタブレットなどを使う機会を多くした。 ・年2回の互見授業週間でタブレットを活用した授業を公開することで、授業での適切な活用について考える機会となった。 ・ICT支援員を講師にクラウドサービスの活用についての研修会を実施した。さらに、ICT支援員にも互見授業週間などで教室に入ってもらいICT機器の活用についてアドバイスを受けた。 															
評 価	1年生：A 2年生：C 3年生：A	A															
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学習生活実態調査における教師から生徒へのコメント記載が良い。生徒はコメントを楽しみにしていると思われる。 ・学習においては、総時間も大切な観点ではあるが、習慣化という観点も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休校となった場合等に備えて、遠隔授業を行うためのスキルも身に付けてもらいたい。 ・生徒のタブレット使用についても指導をお願いしたい。 															
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学習生活実態調査を実施し、生徒の実態把握に努めるべきであるが、生徒や担任の過度な負担とならないようなネットを利用した調査方法など電子化の方策を考えていくべきである。 ・補充授業を今後も継続してできるよう、学年、進路指導部と連携し、3年間を通した指導の流れを確立していかなければいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット1人1台配置に向けて、さらなる活用方法の研究と教員の研修が必要である。 ・家庭学習充実のためにクラウドサービスの活用を推進していかなければいけない。 															

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和2年度 南砺平高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活																	
重点課題	安全な学校生活と心身の健康について																	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車や徒歩による登下校時の交通ルールに対して、安易な行動が時々見受けられる。 ・ 周囲には商店や高校生が利用できる施設等も少なく、スマホや携帯といった通信機器に依存し、トラブル等に巻き込まれやすい環境にある。 ・ 生徒数が少ないことにより、人間関係が深いものとなりやすく、ささいなことから人間関係のトラブルやいじめにつながりやすい。 ・ 精神的に弱い生徒、悩みを抱える生徒が増加傾向にある。 ・ 保健室利用者の中には、身体的な症状での来室以外に、学習や部活動、友人関係等において悩みを抱え、自己に否定的な感情をもった生徒が相談に訪れることが多い。 																	
達成目標	①悩みを相談しやすい学校づくり 個人面談の回数	②自己肯定感の向上 自己肯定感の点数が向上した生徒の割合 (自己肯定感を点数化できるチェックシートを 5、7、9、11、1月に実施)																
	年5回以上	50%以上																
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日頃から声がけをし、悩みを訴えやすい雰囲気づくりに努める。 ・ 定期的に面談をする計画を立てる。 ・ スマホの使い方も含め、いじめの加害者にならないような講座を企画する。 ・ 何かあった場合の対応策について周知を図り、迅速に対応できる体制を整えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年のHR活動に、悩みへの対応の仕方や良好な人間関係のつくり方等についてスクールカウンセラーの講義を取り入れる。 ・ 保健室来室者の心身の状況、欠席状況などを観察するとともに情報の共有を図る。 ・ 全教職員が連携、協力して教育相談・健康相談にあたる。 ・ 巡回指導員、スクールカウンセラー等を活用し、生徒の対応に助言をもらう。 																
達成度	各学年 6回以上実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年4回実施(6、9、11、1月)し、6月と1月の結果を比較した。 <table style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">向上した</th> <th style="text-align: center;">変化なし</th> <th style="text-align: center;">低下した</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td style="text-align: center;">52%</td> <td style="text-align: center;">15%</td> <td style="text-align: center;">33%</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td style="text-align: center;">59%</td> <td style="text-align: center;">14%</td> <td style="text-align: center;">27%</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td style="text-align: center;">54%</td> <td style="text-align: center;">15%</td> <td style="text-align: center;">31%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 24の質問のうち、あてはまる項目をチェックする方法(自己肯定感が高いほど、チェック数が多くなる) ・ チェック数の平均を6月と1月で比較すると、 1年生 6月 11個 → 1月 12個 2年生 6月 9個 → 1月 12個 3年生 6月 14個 → 1月 13個 となった。 		向上した	変化なし	低下した	1年生	52%	15%	33%	2年生	59%	14%	27%	3年生	54%	15%	31%
	向上した	変化なし	低下した															
1年生	52%	15%	33%															
2年生	59%	14%	27%															
3年生	54%	15%	31%															
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機会を見つけて積極的に面談を行った。 ・ 面談で得られた情報を学年部会等で共有し生徒理解を深めた。 ・ 面談で悩みを打ち明けてくれる生徒もあり、スピード感を持って対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒厚生委員会がインターネット利用時間と自己肯定感の関係について調査した。利用時間が短いほど自己肯定感が高くなる傾向があることを文化発表会で発表した。 ・ 教職員間で、教育相談、健康相談内容の情報共有に努めた。 																
評 価	A	A																
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ防止や心の健康保持に対し、効果の高い取り組みである。今後も続けてもらいたい。 ・ 面談者は学級担任に固定せず、話しやすい環境づくりに留意いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の心の状態を数値化できる良い調査であり継続するとよい。 ・ 不登校傾向のある生徒等に対し、適切に対応しているが、今後も生徒の心のケアに十分な配慮をいただきたい。 																
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでは学年所属の教員が面談を担当したが、悩み等の話しやすさを考慮し、学年外の教員が担当する機会も設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巡回指導員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーからの助言や指導を受けながら、全教職員が連携、協力して教育相談・健康相談にあたる。 ・ スクールカウンセラーの配置時間が少なく、一人一人に十分な時間をかけることができない。 																

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持 D : 現状より悪くなった)

令和2年度 南砺平高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援				
重点課題	進路意識の高揚および生徒個々の希望進路に応じた力の育成				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先が大学から就職まで多様で、学力差も大きく、十分な対応ができていない所もある。 ・進路に関する生徒と保護者との認識のずれ等の要因により、進路先決定までに時間がかかり過ぎている。 ・社会情勢に関心の低い生徒が多く、毎日ニュースを見る生徒は50%程である。 ・外部模試は、昨年度より希望制とした。また、昨年度から1・2年生に導入した「高校生のための学びの基礎診断」を基礎力診断テストから、1学期にスタディサポート、3学期に実力診断テストに変更し、生徒の基礎学力の判断指標とし、教科指導に生かす。 ・検定試験として、1年生に英語検定（10月）、2年生に漢字検定（2月）を全員受検とし、他の回は希望制とした。希望制の検定試験として、数学検定、世界遺産検定、ビジネス検定等を実施する。検定試験を通して、主体的に学習に取り組むことで、基礎学力の充実を図る。 				
達成目標	①一人一人に対応した進路指導の充実 保護者同意の進路希望先決定率	②基礎学力の充実 入学から卒業までに、各種検定1種目以上（3級以上）取得した3年生の割合			
	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生 90%以上（7月末） 進学希望者は第1受験希望校を決定する。就職希望者は入社希望企業業種を決定する。 ・2年生 70%以上（12月末） 進学希望者は進学希望校種・学部・学科・コース等を決定する。就職希望者は就職の意思決定をする。 	40%（現3年生の昨年度までの取得率は30.7%）			
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス、卒業生と語る、オープンキャンパスなどを通して、進路意識の向上を図る。 ・希望進路先に対する基礎学力の状況を家庭学習時間調査結果や外部模試・検定を通して把握する。 ・進路希望調査（4月・7月・12月）をもとにした進路に関する個人面談を実施し、保護者会を通して、生徒と保護者が共に納得できる進路希望先を決定できるようにする。 ・保護者会で保護者の進路意識調査を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検定試験（漢字、数学、英語、世界遺産、ビジネス）を合わせて7回実施予定である。 ・1年生は10月の英語検定、2年生は2月の漢字検定を全員受検する。クラス全員で取り組むことで、クラスの学習に対する意識と基礎学力の向上につなげる。朝テストなどを利用し、検定に向けての学習を促す。 			
達成度	3年生 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>100%</td></tr></table> （26名/26名） 2年生 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>82.6%</td></tr></table> （19名/23名）	100%	82.6%	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>46.1%</td></tr></table> （12名/26名）	46.1%
100%					
82.6%					
46.1%					
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路ガイダンス」は全学年、「卒業生と語る」は3学年を対象に実施。コロナの影響で、「オープンキャンパス」は人数制限やWEBで実施されるなど、進学先決定のための活動が制限された。就職希望者については、昨年並みに応募前見学は実施することができ、志望先の選択に役に立った。 ・また希望進路先に対する基礎学力の状況を家庭学習時間調査結果や外部模試・検定を通して把握した。 ・進路希望調査（4月・7月・12月）をもとにした個人面談を実施し、保護者会を通して、生徒と保護者が共に納得できる進路希望先を決定できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で検定の実施が危ぶまれたが、人数を制限したり、教室の使用を工夫したりすることで予定通り実施することができた。 ・対策として、受検する検定向けの問題集を購入してもらい、朝学習や放課後の時間などを利用して、演習に取り組みさせた。 			
評 価	A	A			
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標を決定するためのしなやかさをさらに工夫してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定と到達の繰り返しが大きな成果につながる。検定取得は良い取り組みだ。 ・基礎学力の充実に向けて授業の改善も進めてもらいたい。 			
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査の実施時期を変更する。 ・3年生は4月・6月・7月に実施することで、より正確な希望を把握し、適切な助言を行う。 ・1、2年生は4月・10月・12月に実施することで、文理選択や科目選択等に関し、適切な助言を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生に、検定取得が進路希望先の受験において、評価の対象となることを伝え、学習の動機付けとしていく。 ・検定合格に向けての学習を通して、学びの喜びにつながるような仕組みを構築していく。 			

（ 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった ）

重点項目	特別活動											
重点課題	特別活動の充実および読書習慣の定着											
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会中心に、生徒が主体の学校作りを目指しており、生徒会行事ではそれが達成されているが、校則等の規律という面では教員に頼る部分が多い。 ・小中高合同運動会、球技大会、ボランティア活動、文化発表会など、生徒会が積極的に取り組んでいる行事が多い。しかし、行事に意欲的に参加できない生徒も一定数存在する。 ・部活動の兼部制度が変更され、新しい部もできたばかりで、生徒も先生も、活動内容、活動時間など慣れないところを抱えながらの出発となっている。 ・年間で一冊も本を読まない生徒が4割を超えており、生徒の読書離れが懸念されている。 ・図書館の蔵書冊数が他校に比べて少なく、十分とは言えない状況である。 											
達成目標	①生徒が作るネットルールを守る生徒の割合	②年間3冊以上の本を完読する生徒の割合										
	50%以上 5段階で5（守れた）、4（だいたい守れた）の生徒の割合	70%以上										
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会と教員が一体となって呼びかける。 ・毎学期ごとにアンケート調査を行い、振り返りの場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間を毎学期実施し、生徒全員が読書に取り組める機会を設ける。 ・「図書室だより」の発行や「購入図書調査」を通して委員会活動を活性化し、読書への関心を高める。 ・図書室と学級文庫の蔵書を充実させる。 ・生徒が興味を持ち、手に取りやすいように、図書室内外の図書の配置を工夫する。 										
達 成 度	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">88%</div> <p>平均は4.3であった。なお、あまり守れなかったという生徒は4%であった。</p>	<p>アンケート結果（2月実施）</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>1冊も完読していない</td> <td style="text-align: right;">… 30.2%</td> </tr> <tr> <td>2冊完読した</td> <td style="text-align: right;">… 34.9%</td> </tr> <tr> <td>3～5冊完読した</td> <td style="text-align: right;">… 6.3%</td> </tr> <tr> <td>6冊以上完読した</td> <td style="text-align: right;">… 28.6%</td> </tr> <tr> <td>3冊以上完読</td> <td style="text-align: right;">… 34.9%</td> </tr> </table>	1冊も完読していない	… 30.2%	2冊完読した	… 34.9%	3～5冊完読した	… 6.3%	6冊以上完読した	… 28.6%	3冊以上完読	… 34.9%
1冊も完読していない	… 30.2%											
2冊完読した	… 34.9%											
3～5冊完読した	… 6.3%											
6冊以上完読した	… 28.6%											
3冊以上完読	… 34.9%											
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部で、なぜルールが必要か、どうしたらルールを周知できるか話し合った。 ・ルール周知の強化週間を設け、生徒会執行部が中心となって登校時に玄関で呼びかけたり、ポスターを作成したりした。 ・アンケートは1学期末と2学期末の2回実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間を毎学期設定した。 ・S T前に読書時間を設定した。 ・「図書室だより」の発行や「購入図書調査」を通して、読書への関心を高めた。 ・生徒図書委員会で「教員によるおすすめの一冊」を調査し、結果を廊下に掲示した。 ・図書室と学級文庫の蔵書について充実を図った。 										
評 価	A	C										
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生き活きと学校生活を送らせるためには、生徒の主体性を大切にすることが重要である。ネットルールに限らず、生徒の活動については生徒に考えさせるようにしていくとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3冊の完読は少なすぎる。さらなる工夫が必要である。 ・新聞を読むことも大切である。指導をお願いしたい。 										
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後の使用は原則禁止であるが、使用する姿も見られる。この点の改善が今後の課題である。 ・SNSの不適切な利用をした生徒がいた。ネットを利用する際のマナー指導にも力を入れていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本に触れる機会をどのように増やすか。生徒の興味関心等の調査を行う。 ・長期休業前に図書室で一斉貸し出しを行い、生徒には一人一冊以上の本を借りよう奨励する。 ・長期休業中に読書感想文を課題とする。 ・生徒間で、本に関する話題が増えるよう、「生徒によるおすすめの一冊」等を企画する。 										

（ 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった ）

令和2年度 南砺平高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他（地域・家庭との連携、生徒寮生活）				
重点課題	教育活動への理解を深める情報発信の強化	生徒寮における衛生管理の徹底			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 各種「たより」を定期的に発行しており、「学校だより」は各学期末に平・上平地域全戸に配布し、広報活動を行っている。また、本校のHPにも掲載している。 本校の様子を本校HPに適宜掲載しているが、閲覧する保護者の数が少ない。 <p>《昨年12月の調査結果》 月に一度以上閲覧 … 45% 学期に一度程度閲覧 … 23%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は予想もしなかった新型コロナウイルスの蔓延により、世界中に多くの感染者が出た。昨年度までは、生徒寮内では手洗いの励行や、食品の管理に対する衛生指導に重点を置いてきたが、幸いにも食中毒や風邪等の集団発生はなかった。しかし、今回の脅威を教訓とし、寮生一人一人が衛生面に対して、より一層の危機感を持ち、自己の健康管理や病気に対する予防に努めることを習慣化する必要がある。 			
達成目標	①HPを閲覧する保護者数の増加 HPを毎月閲覧すると回答する保護者の割合（学期末保護者会時に調査）	②自己の健康管理と病気に対する予防 健康管理と病気に対する予防がほぼできたと回答する生徒の割合（3ヵ月ごとにアンケート調査） 検温 … 朝夕 うがい … 帰寮時 手洗い … 帰寮時・食事前			
	50%以上	95%以上			
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 本校のHPに学校行事等の記事を1ヶ月に1度以上掲載し発信する。 更新状況を保護者にPRする。 学期末保護者会で、各月にHPを訪問した回数、記事を調査する。 各種「たより」の発行も従来通り行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒寮内に注意喚起の張り紙をする。 毎日（朝、夕）の体温を記録用紙に記入し、舎監の職員は学習時間と施錠時の2回点検する。 舎監の職員は寮内放送や点呼時に、寮生は役員を中心に在寮時や点呼時に、手洗い・うがい・検温を呼びかける。 			
達成度	1学期末 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>47%</td></tr></table> 2学期末 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>52%</td></tr></table>	47%	52%	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>100%</td></tr></table> （できた…68% だいたいできた…32%） 6回の調査集計（6、7、9、10、11、12月実施）	100%
47%					
52%					
100%					
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 調査の際、保護者からHPに関するアイデアや要望を聞き、改善につなげた。 行事について、月に4、5回掲載した。 年度途中から、行事予定を毎月掲載した。 保護者等が給食の内容が分かるよう、写真を掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> 舎監が呼びかけをし、「手洗い・うがい・検温」の習慣を身につけさせた。寮生は朝夕の体温を記録し、体調が悪い場合は、その日の宿泊はしないこととした。 他の対策として、マスク着用の徹底、脱衣所・風呂場への人数制限（各場所2人まで）、清掃時における消毒と消毒確認チェックシートの記入、朝夕の食事当番体調チェックシートの記入、食堂での机上用パーテーションの設置、時間をずらしたうえ、前・横に人がいない状態での食事、マスクをはずしての会話の禁止、換気扇・排煙窓の常時稼働、食堂入り口ドアと部屋の室内上部窓の常時開放、帰寮時における手とスリッパのアルコール消毒、食堂へ入る時の液体石鹸による手洗いと手のアルコール消毒、出入り業者へのマスクの着用と消毒、3密回避やマスクの着用を促す張り紙の貼付等を実施した。 			
評 価	A				
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを地域の全家庭に配布する取り組みが良い。地域との連携を深めるためにも、学校から情報をさらに発信してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒寮の衛生管理については外部から見ても適切と思われる。新型コロナウイルスをはじめとした感染症への対策を引き続きしっかりと行ってもらいたい。 			
次年度に向けての課題等	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や中学生が知りたい情報の把握に努める。 HPが見やすくなるようレイアウトを再考する。（新着情報が目に付きやすい配置とするなど） 各種たよりについては、学校のようによく伝わるよう、内容を精査する。 	<ul style="list-style-type: none"> 寮内でできる感染予防対策は限られており、休日など自宅で過ごす時の感染予防の徹底が必要である。そのためにも正しい知識を学校全体で再認識する必要がある。 コロナで陰を潜めた他の感染症予防に対しても、十分な対策を引き続き行っていく。 職員による指導の温度差がないよう、感染予防策の徹底を生徒だけではなく、職員にも呼びかける。 			

（ 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった ）